

地域力創造アドバイザー －活用事例集－

総務省 地域力創造グループ^o
人材力活性化・連携交流室

1

地域力創造アドバイザー会議 取組紹介

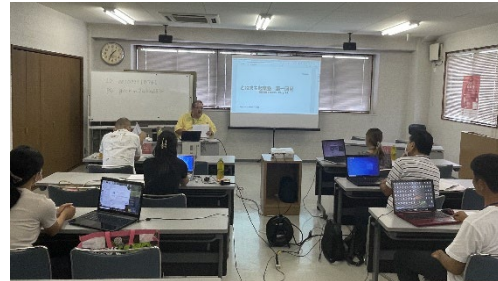
茨城県利根町（起業塾の開講等）

地域力創造アドバイザー	藤田 とし子氏（A349）
活用分野	起業、商店街活性化、若手人材・担い手育成
活用期間（頻度）	令和3年度～令和5年度（月1、2回程度）
キーワード	#地域の担い手 #起業・開業 #起業塾 #魅力発掘 #地域商業の活性化 #若手活躍 #女性活躍 #若者会議 #賑わい創出 #他世代交流 #チャレンジショップ #伴走支援

【目的】地域の担い手となる起業家等人材の発掘・育成、地域の魅力発掘・発信を行い、町のイメージアップと地域商業の活性化を図る。

【内容】

- とねまち起業塾の開講
- とねまち未来ラボの開催（イベント実施）
- チャレンジショップ出店者への助言、サポート
- とねまち起業塾卒業生への伴走支援



とねまち起業塾



納涼昔あそび広場

【成果】

- 地域の担い手となる若手人材の発掘・育成のため、若者会議「とねまち未来ラボ」を定期的で開催。
ラボメンバーによる地域の賑わい創出、商店街の活性化を図るため多世代交流イベント「納涼昔あそび広場」を開催。
子供から高齢者まで多くの来場者を獲得（目標来場者数200名を達成）。
- 令和3年度から始動した「とねまち起業塾」からは、起業・開業を果たす人材を輩出。
 - ⇒ 点心のテイクアウト店：起業塾1期生の30代女性がR5に開業。マルシェやイベント等にも出店。
 - ⇒ 精神科特化型訪問看護ステーション：起業塾2期生の50代女性が空き店舗を改修しR6に開業。
 - ⇒ 子育てカフェ：起業塾3期生の30代女性が町運営のチャレンジショップを活用し、R6に開業。
 - ⇒ エステサロン：起業塾1期生の30代女性が自宅でエステサロンをR5に開業。
 - ⇒ エステサロン：起業塾3期生の30代女性が自宅の一室をサロンに改装しR6に開業。
 このほかにも起業・開業（予定）する人材が多数生まれている。



エステサロン開業

2

令和6年度 優良事例

目次：令和6年度 地域力創造アドバイザー優良事例

事例集No.	都道府県	市町村名	登録コード	アドバイザー氏名	活動分野
No.1	北海道	函館市	A535	佐久間 智之	12.シティプロモーション・地域PR
No.2	北海道	釧路市	A070	朽尾 圭亮	1.地域資源を活用した地域経済循環 7.関係人口の創出・拡大 12.地域PR
No.3	北海道	美唄市	A645	藤田 洋一	2.まちなか再生
No.4	北海道	松前町	A513	畑中 直樹	7.関係人口の創出・拡大 10.地域づくり人材の育成・教育
No.5	北海道	沼田町	A030	虎岩 雅明	1.地域資源を活用した地域経済循環
No.6	北海道	洞爺湖町	A294	為国 孝敏	3.生活機能の維持
No.7	岩手県	岩手町	A580	藤倉 潤一郎	7.関係人口の創出・拡大
No.8	秋田県	鹿角市	A210	三井 文博	12.シティプロモーション・地域PR
No.9	秋田県	仙北市	A648	細川 甚孝	11.自治体経営イノベーション
No.10	山形県	米沢市	A304	森 吉弘	10.地域づくり人材の育成・教育
No.11	山形県	西川町	A582	竹 直也	6.観光振興・交流
No.12	山形県	西川町	A710	利重 和彦	7.関係人口の創出・拡大
No.13	山形県	遊佐町	A073	中島 淳	1.地域資源を活用した地域経済循環
No.14	山形県	遊佐町	A368	佐藤 恒平	7.関係人口の創出・拡大
No.15	茨城県	八千代町	A450	渡邊 竜一	1.地域資源を活用した地域経済循環 12.シティプロモーション・地域PR
No.16	茨城県	大子町	A317	齋藤 一成	2.まちなか再生
No.17	千葉県	香取市	A451	河井 孝仁	12.シティプロモーション・地域PR
No.18	千葉県	香取市	A086	飯盛 義徳	12.シティプロモーション・地域PR
No.19	新潟県	津南町	A713	山本 竜也	10.地域づくり人材の育成・教育
No.20	富山県	氷見市	A478	金山 宏樹	1.地域資源を活用した地域経済循環 12.シティプロモーション・地域PR
No.21	福井県	大野市	A466	橋村 和徳	1.地域資源を活用した地域経済循環 7.関係人口 8.移住定住 11.自治体経営イノベーション
No.22	長野県	松本市	A084	喜井 靖	6.観光振興・交流
No.23	長野県	信濃町	A671	平林 和樹	7.関係人口の創出・拡大 8.移住・定住促進
No.24	岐阜県	海津市	A642	山本 雅也	7.関係人口の創出・拡大
No.25	三重県	名張市	A597	中村 元	6.観光振興・交流

目次：令和6年度 地域力創造アドバイザー優良事例

事例集No.	都道府県	市町村名	登録コード	アドバイザー氏名	活動分野
No.26	兵庫県	洲本市	A478	金山 宏樹	1.地域資源を活用した地域経済循環 10.地域づくり人材の育成・教育 12.地域PR
No.27	兵庫県	豊岡市	A249	中嶋 健造	1.地域資源を活用した地域経済循環 4.環境保全・SDGs 10.地域づくり人材の育成・教育
No.28	兵庫県	加東市	A546	細川 哲星	1.地域資源を活用した地域経済循環 6.観光振興・交流 12.シティプロモーション・地域PR
No.29	奈良県	奈良市	A462	大牧 圭吾	1.地域資源を活用した地域経済循環
No.30	鳥取県	米子市	A607	又吉 重太	2.まちなか再生 7.関係人口 10.人材の育成・教育 11.自治体経営イノベーション 12.地域PR
No.31	鳥取県	倉吉市	A687	本橋 恵一	4.環境保全・SDGs
No.32	岡山県	井原市	A424	矢島 里佳	1.地域資源を活用した地域経済循環
No.33	岡山県	矢掛町	A415	徳田 恭子	1.地域資源を活用した地域経済循環
No.34	愛媛県	伊予市	A399	前神 有里	3.生活機能の維持 7.関係人口 8.移住定住 9.少子化対策 10.人材育成 11.自治体経営 12.地域PR
No.35	高知県	室戸市	A500	船木 成記	10.地域づくり人材の育成・教育
No.36	高知県	須崎市	A612	堀見 和道	市行政全般に係るアドバイザー業務
No.37	福岡県	築上町	A452	吉弘 拓生	10.地域づくり人材の育成・教育
No.38	長崎県	波佐見町	A563	河野 公彦	1.地域資源を活用した地域経済循環 4.環境保全・SDGs
No.39	長崎県	波佐見町	A621	平尾 由希	1.地域資源を活用した地域経済循環
No.40	熊本県	南関町	A699	太田 剛	2.まちなか再生 7.関係人口の創出・拡大 10.地域づくり人材の育成・教育
No.41	熊本県	南阿蘇村	A464	中川 直洋	6.観光振興・交流 8.移住・定住促進 12.シティプロモーション・地域PR
No.42	沖縄県	南城市	A084	喜井 靖	6.観光振興・交流
No.43	沖縄県	東村	A227	鈴木 邦治	1.地域資源を活用した地域経済循環 10.地域づくり人材の育成・教育 12.地域PR

No.1 北海道函館市（市政はこだて発行業務）

地域力創造アドバイザー	佐久間 智之氏（A535）
活用分野	シティプロモーション・地域PR
活用期間（頻度）	令和6年度（月1回程度）
キーワード	#広報 #広報紙 #リニューアル

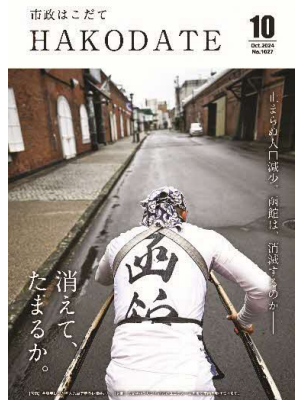
【目的】 市政の円滑な遂行を図るため発行している「市政はこだて」をリニューアルし、重要施策や市政情報等についてより広く市民へ周知する。
市のHPやSNSを見ることができない市民のほか若者を中心とするより多くの市民に市政情報を届ける。

【内容】

- 「市政はこだて」のリニューアル
- 「市政はこだて」の読みやすさ向上と読者増加のため紙面改善を行うための助言・指導。

【成果】

- リニューアル号（令和6年10月号）の発行に合わせて紙面を大幅に刷新し、市政や事業への市民理解の深化を図った。
- ▶紙面アンケートで「見やすい」と答えた割合：リニューアル前 約25%→リニューアル後 約50% に倍増
紙面アンケートの自由記載欄にも「見やすくなった」との声が多く寄せられた。（R6.10アンケート：181人/1189人中）



表紙



特集



information

No.2 北海道釧路市（阿寒丹頂の里エリア活性化総合支援）

地域力創造アドバイザー	朽尾 圭亮氏（A070）
活用分野	地域資源を活用した地域経済循環、関係人口の創出・拡大、シティプロモーション・地域PR
活用期間（頻度）	令和4年度～令和6年度（月1、2回程度）
キーワード	#地域活性化 #魅力発掘 #賑わい創出 #コンテンツ造成 #経営改善 #経費削減 #情報発信 #伴走支援

【目的】

- ①阿寒丹頂の里エリアの魅力向上を通して地域活性化に繋げる。
- ②滞在時間の長い『日中滞在型エリア』として機能充実と新たな魅力創出を図る。

【内容】

- ・阿寒丹頂の里エリアの魅力向上に向けた活性化策の検討や提案、及び支援
 - ・持続可能な管理運営に必要な経営改善策の支援
- ⇒ 成功事例に基づいたノウハウを落とし込んだ提案や助言

【成果（見込み）】

宿泊部門：宿泊Webページの改善による予約環境の整備

⇒ 令和5年度利用者と令和3年度利用者(制度活用前)の比較 30.7%増

飲食部門：地元食材を活用した新メニュー開発によるコンテンツ造成、
及び市長や地元高校生との完成発表会の開催による情報発信

⇒ 令和5年度利用者と令和3年度利用者(制度活用前)の比較 34.7%増

温浴部門：「ありがとう風呂」や各種サービスの実施による誘客、利用促進

⇒ 令和5年度利用者と令和3年度利用者(制度活用前)の比較 11.1%増

その他：バードフェスティバル開催による誘客 ⇒ 前年同時期比175.3%



新メニュー完成発表会



バードフェスティバル



ありがとう風呂

No.3 北海道・美唄市（中心市街地活性化）

地域力創造アドバイザー	藤田 洋一 氏（A645）
活用分野	まちなか再生
活用期間（頻度）	令和6年度～令和7年度（月15日程度）
キーワード	#まちなか再生 #空き家・空き店舗活用 #賑わい創出 #中心市街地活性化 #観光振興

【目的】

中心市街地活性化協議会の設立・中心市街地活性化基本計画の策定に伴い、同協議会に対する助言や、中心市街地内の空き店舗の活用等について検討し、賑わいの創出を図る

【内容】

- 中心市街地活性化基本計画の策定に対する助言
- 空き家・空き店舗等の利活用に係る取組
- 商店街振興組合と共に市街地事業所への事業継承他調査
- 観光振興に向けた美唄国設スキー場整備計画業務
- 美唄国設スキー場開催イベント運営のサポート
- その他必要な業務



（空き店舗の可視化）



（スキー場イベント）

【成果（見込み）】

- 月に1回程度開催される中心市街地活性化協議会への出席の他、計画策定に向けた協議会運営、計画スケジュールやその事業内容についての助言を行った。
（令和6年度は9月・10月・12月・1月・2月・4月の6回開催）
- 中心市街地内の空き店舗情報、事業承継意向調査を行い市街地店舗（事業者）の現状をデータとして可視化。
市内店舗への意識調査に基づき、美唄市中小企業等振興事業補助事業内容への助言を行った。
（空き店舗の具体的な活用方法については検討中）
- 美唄国設スキー場整備基本構想策定に向け、近年のスキー場索道施設傾向調査や運営費用の試算の他、市民参加の検討委員会（令和6年8月）に出席しスキー場リニューアル後の試算報告を行った。
- 美唄国設スキー場イベント協賛営業の他、運営会議へ出席し効率的なイベント運営に向けたサポートを行った。

No.4 北海道松前町（松前町スマート・シュリンクSXビジョン等の伴走支援）

地域力創造アドバイザー	畑中 直樹 氏（A513）
活用分野	地域資源を活用した地域経済循環、生活機能の維持、環境保全・SDGs、観光振興・交流、関係人口の創出・拡大、地域づくり人材の育成・教育、自治体経営イノベーション
活用期間（頻度）	令和5年度～令和6年度（月1回程度）
キーワード	#スマートシュリンク #SX #DX #SDGs #再生可能エネルギー #伴走支援

【目的】

人口減少・少子高齢化が進む中で持続可能なまちづくりへの変革と力をためる「スマート・シュリンク（賢く縮む）」の考えを取り入れた『松前町スマート・シュリンクSXビジョン』に基づき、官民・産業分野を超えた包括的なまちづくりを行う。

【内容】

- 官民連携共創会議「松前S X推進共創会議」の運営
- 「松前町スマート・シュリンクS Xビジョン」に搭載したプロジェクトの伴走支援
- 「松前町DX推進計画」の伴走支援
- 「松前版SDGsチャレンジアクション」の伴走支援

【成果（見込み）】

- 稼ぎ続ける持続可能な観光、漁業、畜産の産業構造を再構築
 - モニターツアーの実施・商品化、インバウンドツアー試行
 - 潮流や海水温など漁業DX実証（はこだて未来大学連携）、BlueCarbonスタート（日本製鉄連携）
 - 再エネを活用した新たな産業（植物工場）誘致スタート
- 再エネ地発地消転換
 - 風力発電を活用した地域エネルギー会社の設立（R7.4.1）
 - 再エネ由来水素活用の検討支援（JH2A連携）
- 担い手の確保・人材育成
 - 地域おこし協力隊等I・Uターン人材の確保、キーパーソン育成（3名他）
 - 小中高校SDGs探求学習の支援、教員研修（兵教大連携）
 - DX AI活用研修



モニターツアー募集



BlueCarbon



小中高校合同教員研修



Uターン担い手の確保

No.5 北海道・沼田町（着地型観光旅行商品開発事業）

地域力創造アドバイザー	虎岩雅明 氏（A030）
活用分野	地域資源を活用した地域経済循環、まちなか再生、生活機能の維持、防災減災・危機管理、観光振興・交流関係人口の創出・拡大、移住・定住促進、少子化対策、子ども・子育て支援、地域づくり人材の育成・教育自治体経営イノベーション、シティプロモーション・地域PR
活用期間（頻度）	令和6年度～令和6年度（月1回程度）
キーワード	#産学官連携 #着地型観光旅行 #地域商社

【目的】

近年の消費者の行動傾向について、購入したモノやサービスを使ってどのような経験・体験をするかという「コト消費」に消費者の関心が置かれていることを踏まえ、沼田町における観光資源調査及び地域活性化調査の実施と、付帯する観光マーケティング及び着地型観光商品（以下「観光商品」という）の開発を目的とする。

【内容】

沼田町×北海学園大学×株式会社まちづくりぬまた（地域商社）が連携し、沼田町における観光資源の調査及び地域活性化調査の実施、そして具体的な観光商品開発と社会実装に向けた伴走支援を担うこととする。

上記を踏まえ、次の内容に示す事項について、効果的となるよう業務を実施する。

（1）大学の沼田町でのフィールドワーク企画および実施

大学が沼田町での観光資源調査及び地域活性化調査のため、年に複数回フィールドワークを行えるように企画と調整を行う。

（2）大学と町民とのワークショップの企画および実施

観光商品の社会実装に向けて町民との意見交換のためワークショップを企画し、ファシリテーターを担い、大学と町民の交流機会を設けるとともに町内での本活動の認知度を上げ、町民の理解と協力を得られるように進める。

（3）産学官連携による観光商品開発に向けた調査業務の企画および伴走

大学からの提案物をベースに実現可能な観光商品となることを目的にブラッシュアップし、モニターツアーの企画およびアンケート調査を行う。

（4）関係機関との協議・ビジネスパートナーとしての仕組みづくり

観光商品を開発する上で必要となる関係機関との調整及び「収益性」のある持続可能なビジネスモデルを構築する。

（5）その他、旅行商品の開発に必要な事項

【成果（見込み）】

昨年度（令和5年度）、沼田町単独事業で産学官連携により本事業を開始、初年度はフィールドワーク・町民とのディスカッション等により、学生より4案の旅行商品の提案を受けた。本年度は地域力創造アドバイザーの力を借りて4案をブラッシュアップし、より社会実装可能な商品2案に絞った。モニターツアーの実施や、どのように旅行商品として販売していくかも検討し、2月下旬に町民を対象とした発表会を開催した。

（案1）バズり体験ツアー…町内の観光スポットを巡り、SNSを活用した動画投稿により「バズる」を体験するツアー

（案2）トマト体験ツアー…特産品のトマトの収穫体験から、実際に自分たちで採ったトマトでピザづくりを行う。



（町民説明会を終えて町長と記念撮影）

No.6 北海道洞爺湖町（洞爺湖町地域公共交通等策定支援アドバイザー業務）

地域力創造アドバイザー	為国 孝敏氏（A294）
活用分野	地域交通、人材研修、地域ブランディング
活用期間（頻度）	令和4年度～令和6年度（月1回程度）
キーワード	# 地域交通 # 人材研修 # まちづくり # 職員研修 # 政策提案

【目的】

地域公共交通計画及びまちづくり総合計画に基づく施策の推進に対する指導・助言。

【内容】

- 地域公共交通に関する助言、サポート
- まちづくり審議会に関する指導・助言
- 若手職員を軸としたまちづくりプロジェクトチームへの助言、サポート

【成果（見込み）】

- 今後の交通に関して、町民を対象にまちの交通意見交換会開催（R4）
L5月：4地区合計26名参加/11月：3地区合計18名参加
- 事業者等ヒアリング実施（R4）
L5月：交通等関係機関8社参加/11月：交通事業者2社参加
- 洞爺湖町地域公共交通計画の策定支援（R5）
L令和5年3月28日策定
- 洞爺湖町地域公共交通活性化協議会へアドバイザーとして出席
L令和4年度6回/令和5年度3回/令和6年度3回
- 町議会議員向けに地域公共交通勉強会を開催（R5）
- 公共交通に関する専門的知見を、洞爺湖町実施事業に反映させ、新しい地域公共交通の運行を開始。（毎月200人前後の利用実績）
- 若手職員を軸としたまちづくりプロジェクトチームの企画プレゼンに参加、助言



R6.10運行開始のコミュニティタクシー

No.7 岩手県岩手町（リビングラボの運営等支援）

地域力創造アドバイザー	藤倉 潤一郎氏（A580）
活用分野	関係人口の創出拡大
活用期間（頻度）	令和5年度～令和6年度（月4、5回程度）
キーワード	#リビングラボ #官民学連携 #関係人口 #地域の担い手 #政策形成 #魅力発掘 #起業支援 #中心市街地活性化 #フューチャーセンター #民間主導 #地域間連携 #空き家のリノベーション

【目的】

町民の意見を反映した政策形成及び、岩手町の課題解決及び関係人口創出を目的としたリビングラボに関して、民間主導によるプロジェクトの立ち上げ・運営や、行政主体から民間主体となるリビングラボの自立化に向けた運営体制の構築を目的とする。

【内容】

- 岩手町リビングラボの運営支援、コーディネーターとの各種調整
- 町内外に取り組みを発信するフォーラムの企画調整（イベント実施）
- 官公庁や他自治体にラボ活動をアウトリーチするための助言、サポート
- 地域課題解決に向けた実施主体となる組織の設立支援

【成果（見込み）】

- リビングラボプロジェクトでは、プロジェクトマネージャーを務め、各プロジェクト運営を企画・推進し、首都圏と地方を接続する人材ネットワークを構築。
- 丸紅㈱と連携したプラスチックの油化を行う実証実験をきっかけに、東北では仙台に次ぐ2か所目となる、プラスチックの一括回収を令和6年4月から実施。
- リビングラボで町民から要望のあった「宿泊施設の不足」に対し、移動式の木造住宅「ムービングハウス」を宿泊施設として利用。年間では1,300人（2025年）が利用。
- 道の駅の産直施設にサイネージ端末とAIカメラを設置し、顧客分析を行うなど経営戦略に活用して売り上げアップに貢献。
- 地元テレビ局や観光会社と連携し、町の田んぼアート活用をしたグリーンツーリズム一体型プロジェクトで約200人の交流・関係人口創出に寄与。ほかにもプロジェクトが多数創出。



ものづくりラボ



森林ラボ



フォーラムの事例発表

No.8 秋田県鹿角市（中核的観光団体体制強化伴走型支援事業）

地域力創造アドバイザー	三井 文博 氏（A210）
活用分野	シティプロモーション・地域PR
活用期間（頻度）	令和4年度～令和6年度（年5回程度）
キーワード	#観光振興 #誘客促進 #伴走支援 #人材確保支援 #地域資源の活用 #関係人口創出 #地場産品の開発 #地域おこし協力隊 #観光コンテンツ造成

【目的】

市の観光交流施設「中滝ふるさと学舎」を管理運営するNPO法人の業務計画策定をサポートし、計画を推進する人材が確保されるよう支援を行うことで法人の活動の活性化と機能強化を図る。

【内容】

- 「中滝ふるさと学舎ステップアップ計画」策定支援
- NPO法人への施設運営に関する助言、サポート
- 人材確保支援

【成果】

- 「中滝ふるさと学舎ステップアップ計画」策定
運営方針と活動目標を定め、目標達成のために必要な人材を特定した3か年計画を策定。「アート」をコンセプトに、地域資源を生かした事業展開を推進した。
- 地域おこし協力隊の採用
地域おこし協力隊制度を活用し、ステップアップ計画に基づくプロジェクト運営及びデジタルを活用した情報発信、体験メニューの開発等を担う人材を確保。
 - ・写真展、ポストカード教室、クラフト体験等アートがテーマのイベントの開催や体験メニューの造成を行った。
 - ・秋田ふるさと手作りCM大賞に参加し、審査員特別賞を受賞。東北6県でCMが放映され、中滝ふるさと学舎周辺地域のPRが図られた。



計画策定のためのミーティング



ポストカード教室



アート写真展

No.9 秋田県仙北市（政策支援アドバイザー）

地域力創造アドバイザー	細川 甚孝 氏（A648）
活用分野	行政組織・地域社会の再生へ向けた総合的支援
活用期間（頻度）	令和6年4月～翌3月（月2～3回程度）
キーワード	#政策支援 #行政改革 #地域づくり #若者会議 #地域の担い手 #若手活躍 #スキルアップ

【目的】

市政方針の実現に向けて行う行財政改革による財政規模の適正化を推進し、市長の適切な政策判断に必要な情報整備及び事業評価制度の確立、身の丈にあった財政規模への転換、市民との対話と職員が効率的に活動できる体制づくり、若手職員の育成を図る。

【内容】

- 市民意識調査に係る調査票作成及び調査結果の分析に対する助言
- 事務事業評価業務等への助言
- 人事研修の実施等



事務事業評価に係る
事業評価会

【成果（見込み）】

- 市民意識調査を市民3,000人へ行い、市民の市が実施している施策への満足度調査を実施。
⇒政策アドバイザーによる調査結果の詳細データを生かした各種施策への助言
を部局ごとに部局経営方針シートへ反映させる等施策のブラッシュアップを実施。
- 行政評価として行政評価システムを構築し、施策や事業の評価方法を見直しブラッシュアップを実施。
⇒行政評価システムによる事業評価を行い今まで惰性で継続していた事業の廃止（2024年度は維持管理費が過大となっている公共施設に係る事業の廃止）などを行い、他事業実施のための財源確保に至った。
- 管理職向けに行政評価や行政計画策定に際しのスキルアップ研修を開催。
⇒これまでリーチできていなかった分野のスキルアップに至った。



行政課題に対する研修風景

No.10 山形県米沢市（持続可能な対話型地域づくり人の育成）

地域力創造アドバイザー	森 吉弘氏（A-304）
活用分野	人づくり、リーダー養成
活用期間（頻度）	令和5年度～令和6年度（月1回程度）
キーワード	#若手リーダー #若手人材育成 #地域づくり #コミュニケーション #対話 #チームビルディング #実践活動 #地域づくり実践計画 #継続的 #内発的 #地域づくり仲間 #人的ネットワーク

【目的】

地域づくりに必要なスキル向上を目指した講座及びセミナーを通して、各自が取り組んでいる地域活動等の場で生かすとともに、本市の地域課題解決に対し継続的かつ内発的な実践活動に取り組む若手リーダーを育成する。

【内容】

○地域づくり人育成塾（R5：基礎編、R6：実践編）の開講

本市の将来を担う若手人材育成のために、人間力を向上させるスキルと心得を取得するとともに、その学びを活かし本市の地域課題の解決に向けて「地域づくり実践計画」を作成する。

対象者：20～50代の市内在住の方（約30名）

回数：令和5年度 8回（キックオフ講演会含む） 令和6年度 8回 ※1回の講座時間は3～4時間

○地域づくりセミナーの開催

塾生が自ら企画運営することで、これまでの学びをアウトプットできる実践的な活動の場を創出するとともに、新たな地域づくり人を増やす。

対象者：地域づくりに興味のある市内在住の方（200名程度：塾生30名含）

回数：令和6年度 3回（6月・8月・11月）※毎回、テーマに沿った特別ゲストを招聘

【成果】

○森氏に伴走型で指導していただくことで、参加者一人一人のコミュニケーション力の向上が図られた。（R5）

○塾生同士の情報交換や交流の場が作られ、地域での自分の役割を知り気づき、地域づくり人としての自覚が高まった。（R5）

○塾生を中心とした組織メンバーが主体的に地域活動に関わることで個々人のレベルアップが図られ、それが組織全体のレベルアップにつながり、さらには組織同士が連携し合うことで、市全体の地域活性化へと広がりを見せている。（R6）

○仕事や活動の分野が違う他の塾生の意見を聴くことにより、お互い新たなアイデアが生み出され、塾生同士が気軽に相談できる励まし合う地域づくり仲間が形成されてきている。（R6）



地域づくり人育成塾



地域づくりセミナー

No.11 山形県西川町（観光マーケティング）

地域力創造アドバイザー	竹 直也氏（A582）
活用分野	地域資源を生かした地域経済循環、観光振興・交流、関係人口の創出・拡大、シティプロモーション・地域PR
活用期間（頻度）	令和6年度（月1、2回程度）
キーワード	#地場産品発掘 #6次産業化 #地域商業の活性化 #観光マーケティング #DMO連携 #関係人口創出 #賑わい創出 #地域ブランディング #シティプロモーション #メディア活用

【目的】

観光戦略の実施、伴走を行うとともに、マーケティングと分析アドバイスによる顧客（観光客）視点にたった観光を手段とする持続可能な地域づくり事業を展開し、連動して関係人口の創出や拡充を推進する。

【内容】

- 観光戦略のアクションプラン策定と関係事業者間の共通理解にたった展開
- 宿泊地における面的DX化や、来町者によるコンテンツ等の満足度調査と分析
- 広域的な視点も含めたDMO（観光地域づくり法人）に係る勉強会の実施
- ツーリズムやガイド、サインの整備を包括した財源確保策としての交付金等採択支援

【成果】

- 観光戦略の実施計画となるアクションプランを策定
 - R6.4月～R7.1月に策定。プランの内容は、同3月に(一社)月山朝日観光協会理事会・総会の場面で共有
- R6.5月に6宿泊施設（総数20施設中）にチェックイン用タブレットを配備し、属性や目的などを集約するシステムを構築
 - また、同8月から道の駅など主要な8立寄施設にQRコードを設置。来町満足度の把握、分析を開始
- 近隣の1市3町と協働で、DMOに関する勉強会や先進地視察を実施
 - 1回目R6.9/25：課題資源の棚卸し等 2回目10/25：DMO理解の深化（講師：じゃらんリサーチセンター）
 - 3回目11/19～21：先進地視察（九州方面） 4回目12/10：方向性の整理確認
- 町又は観光協会と、観光庁交付金の公募申請に向けた組成アドバイス等を反復
 - ①オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光推進事業（R7.3/14㍻切）
 - ②国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業（R7.3/28㍻切）
 - ③地域観光魅力向上事業（R7.4/18㍻切）



観光戦略と満足度調査



勉強会の開催

No.12 山形県西川町（地域ブランディング・関係人口創出）

地域力創造アドバイザー	利重 和彦氏（A710）
活用分野	地域資源を生かした地域経済循環、関係人口の創出・拡大、シティプロモーション・地域PR
活用期間（頻度）	令和6年度（月1、2回程度）
キーワード	#地場産品発掘 #販路開拓 #地域ブランディング #観光振興 #インバウンド対応 #メディア活用 #企業版ふるさと納税 #関係人口 #地域商業の活性化 #人材研修 #シティプロモーション

【目的】

地域資源の発掘や魅力発信等地域ブランディングを中心とした地方創生事業の実施により、移住・定住、関係人口の創出、地域資源を活用した地域経済の振興など地域再生施策の充実を図る。

【内容】

- NFT発行事業に対する支援
- 移住・交流体験ツアーの企画、助言
- 企業研修、行政研修の企画、誘致
- 自治体DXに対する支援



移住・交流体験ツアー



デジタル住民票NFTの発行

【成果】

- web3の技術を活用したNFTの発行を支援。
デジタル住民票や命名権NFT等を発行。自治体の新たな財源を得るほか、地域資源をNFTで販売することで、地域の知名度向上や観光客・関係人口を創出。デジタル住民とメタバース交流会を行うなど、新たな交流事業も実施している。
- 年3回の移住・交流体験ツアーを実施。延べ約50名が参加し、移住者との交流や四季折々の町の魅力を体験し、町イベントにも参加。
- 関係人口・関係企業の創出にむけ、企業研修や行政視察を企画。
1 企業の企業研修を3年連続で誘致するほか、2 自治体9名の行政視察を企画。
- 生成AIを活用した情報発信に関するDX職員研修を開催。自治体DXの推進を支援。



企業研修

No.13 山形県・遊佐町（地域課題解決型ビジネス支援）

地域力創造アドバイザー	中島 淳 氏（A073）
活用分野	起業、若手人材・担い手育成
活用期間（頻度）	令和5年度～令和6年度（月1回程度）
キーワード	#地域の担い手 #起業・開業 #魅力発掘 #地域商業の活性化 #若手活躍 #若者会議 #賑わい創出 #他世代交流 #チャレンジショップ #伴走支援

【目的】

ひとりでも多くの若者を町に残し、町に受け入れるために若者が「町で働く」きっかけや環境の創出を目指し、産官学連携を進める一般社団法人を設立し、地域課題解決型ビジネスのインターン、空き店舗利活用等の事業に取り組み、地域の担い手となる起業人の育成と発掘を行うことで、地域の活性化を図る。

【内容】

- 若手事業者の社会起業に関する地域課題解決型ビジネスの相談支援
- 若者を中心としたまちづくりの法人設立に関する相談支援
- その他、若者を中心としたビジネスの創出に関する相談支援

【成果（見込み）】

- R6 産官学連携を進める一般社団法人「遊ばざるもの学ぶべからず」の設立
 - ⇒R5町内外若手主体のワークショップ（ユザゼミ）開催による機関設計
 - ⇒R6山形県の公益財団法人の地域課題解決型ビジネス支援の取り組みと連携
- R5～R6 大学生地域課題解決型インターンシップの実施
 - ・R5 駅前に地元高校生のサードプレイスづくり ⇒ 駅前の空き店舗を利活用した拠点「おでこBASE」が誕生
 - R6以降も「おでこBASE」を大学生が運営し、地元高校生の居場所として機能（利用者 約100人/月）
 - ・R6 観光誘客を目的に観光プログラムを実証
 - ⇒ 大学生企画の芋煮会を実施（県内外の大学生、約40人が参加）
- R6 伴走支援型の地域課題解決型ビジネスを支援する助成金の制度設計
 - ⇒ R7に「まちづくり助成金制度」として実施予定



おでこBASE



大学生芋煮会

No.14 山形県・遊佐町（若者活躍・関係人口の創出）

地域力創造アドバイザー	佐藤 恒平 氏（A368）
活用分野	関係人口の創出、若手人材・担い手育成
活用期間（頻度）	令和6年度（月3回程度）
キーワード	#地域の担い手 #魅力発掘 #若手活躍 #若者会議 #賑わい創出 #他世代交流 #関係人口 #伴走支援

【目的】

10代及び大学生が町内に滞在する時間を生み出し、エリア内の資源価値を知り、若者のものづくり機会と販売のビジネススキルの獲得機会を創出することで、若手まちづくり・ビジネス人材を育成する。域外の大学生と地域資源を活用した「ものづくり」と販売を通じて、商工振興と観光に有益な活動をもたらす、関係人口の創出を目指す。

【内容】

- 町内の高校生のサードプレイス「おでこBASE」に集う、高校生を主役としたまちづくり支援
- 高校生・大学生向けの「手工芸」を中心としたものづくりと販売によるビジネス体験
- 町外の大学生と地元高校生の「ものづくり」と販売を通じての、関係人口の創出支援

【成果（見込み）】

- R6 おでこBASEで高校生向けのワークショップ（年12回開催）
 - ①手工芸を中心としたものづくり支援 ⇒ 町の地域ブランド「鮭」の箸置きを製作イベントで実証販売し、町の観光拠点である道の駅で販売予定
 - ②地元起業家によるビジネス講座
 - ⇒ 地元起業への関心の醸成
 - ③動画コンテンツ製作講座
 - ⇒ SNS等のコンテンツ制作を通じたデジタル分野のビジネススキル獲得



ものづくり
ワークショップ



鮭の箸置き

No.15 茨城県八千代町（町の魅力発掘・ブランド化等）

地域力創造アドバイザー	渡邊 竜一氏（A450）
活用分野	地域資源を活用した地域経済循環、シティプロモーション・地域PR
活用期間（頻度）	令和6年度～令和8年度（月1回程度）
キーワード	#魅力発掘 #シティプロモーション #賑わい創出 #世代間交流 #地域ブランド化 #若手活躍 #地域連携 #シビックプライド #ふるさと納税

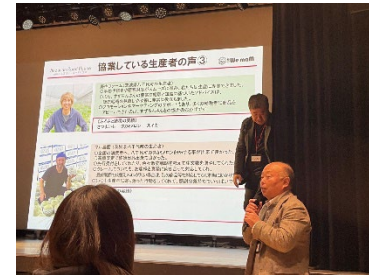
【目的】白菜日本一の町として、知られる八千代町がさらなる町の魅力を発掘・再発見し、住民参加型のシティプロモーションや町のブランド化の取組みを継続性を持って行う体制づくりを行うとともに、地域活性化の取組に関する知見やノウハウを活かし、ふるさと納税制度のさらなる活用及び返礼品開発等につなげていく。

【内容】

- 白菜日本一の町のブランド向上に向けたPR企画
- 生産者の活動を広く周知するための勉強会の開催
- 町のPR動画を制作する高校の取組みを支援
- 地域ブランド化の取組み事例の紹介や連携



白菜日本一のブランド化
検討会議



アミューズ主催勉強会で
の八千代生産者の紹介



八千代高校での映像講義

【成果（見込み）】

- 白菜日本一を標榜するための深い知識を住民が理解するための“検定”制度などの仕組化を提案。
令和7年度に具体的な取組みを検討することとなった。 ⇒ 次年度検定の仕組化へ（見込み）
- 町のブランド化を進めている富士河口湖町と本社を当町に移転しまちづくりに取組む株式会社アミューズを紹介し現地訪問。
町の音楽フェス立上げメンバー3名を随行させ、民間と行政の連携の様子やメディアの活用・プロモーション手法などを学んでもらった。
アミューズ主催の勉強会において八千代町の実産者の取組みを紹介。60名の聴講者の参加を得た。
今後連携したふるさと納税の加工返礼品などの開発やまちのブランドPRについて連携協力を進めていく。
- 八千代高校で3年生が取組んでいる町のPR動画制作に関して、企画制作に関する講義を行い、町への興味関心を惹く動画について指南。その意図を汲んだ3本の動画が完成し、完成後の講評も行った。
次年度以降も、高校とも参加型のまちづくりの活動の連携を図っていく。

No.16 茨城県大子町（商店街活性化）

地域力創造アドバイザー	齋藤 一成 氏（A317）
活用分野	中心市街地活性化、商店街活性化
活用期間（頻度）	令和4年度～令和6年度（月1回程度）
キーワード	# 商店街活性化 # 100円商店街 # 顔見し～る # まちあそび人生ゲーム

【目的】

大子町中心商店街で活動する商店街の若手有志の団体（らっしやい・でえご隊）の既存事業の磨き上げや新規事業の実施等を支援することで、商店街の魅力を向上し、地域活性化を図る。

【内容】

- 100円商店街（※1）事業の磨き上げ
- 新規事業である商店街まちあそび人生ゲーム（※2）と顔見し～る（※3）の実施の支援
 - ※1 商店街の各店舗の一部の商品を100円で販売するイベント。平成19年からこれまでに45回開催
 - ※2 商店街を人生ゲームのボードに見立てて商店街を回遊するイベント
 - ※3 スタンブラリー形式で店主の写真のシールを集めながら商店街を回遊するイベント

【成果（見込み）】

- 100円商店街
 - ⇒100円商品の販売だけでなく、新規イベントとして100円開始オークションを同日開催。
 - ⇒マンネリ化が問題視されていたが、各店舗がアドバイスを基に商品の見直し等を行った結果、来客数が増加（1～2割）しただけでなく、客層の変化（若い年代の来客数の増加）も見られた。
- 商店街まちあそび人生ゲーム
 - ⇒商店街の施設を会場にする町のイベントと同時に開催。
 - 人生ゲームの実施によって、当該イベント会場から商店街への新たな人の流れを生み出すことができた。
 - 約140組が参加。
 - ⇒参加店舗のイベント実施日の売上は例年の1.2倍～1.5倍に増加した。
- 顔見し～る
 - ⇒通常閑散期である時期に町内外から100人以上が参加し、商店街内に活気が生まれた。
 - ⇒参加者からは、「これまで入ったことのない店舗に入るきっかけができた。」等のコメントがあった。
 - ⇒イベントと併せて安心安全な商店街づくりを推進し、新たに商店街内にこどもを守る110番の家が25店舗登録された。



まちあそび人生ゲーム
チラシ



顔見し～るチラシ



100円商店街の様子

No.17 千葉県香取市（シティプロモーション支援）

地域力創造アドバイザー	河井 孝仁氏（A451）
活用分野	シティプロモーション・地域マーケティング・メディア活用・行政広報
活用期間（頻度）	令和5年度～令和7年度（月1回程度）
キーワード	#シティプロモーション #地域の担い手 #魅力発掘 #市民ワークショップ #シビックプライド

【目的】シティプロモーション事業の展開や指針づくりへの助言、市民等の意識醸成のためのワークショップ等の開催、庁内連携の基礎構築を図る。

【内容】

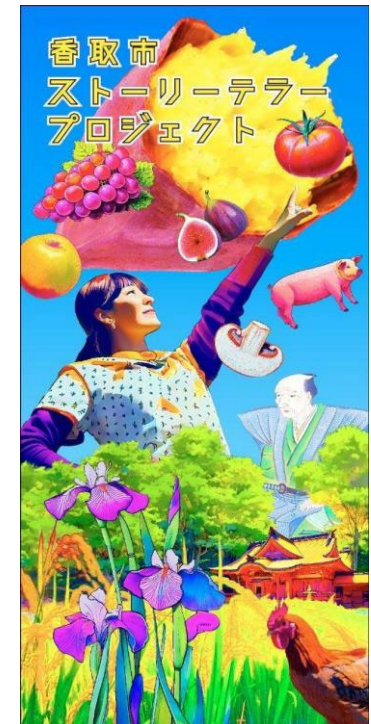
- 市職員向け研修会の開催
- 市職員、市民向けワークショップの開催
- 市民向けシティプロモーション講演会の開催
- 市長との対談動画の作成
- シティプロモーション指針の監修



市民ワークショップの様子

【成果（見込み）】

- 市職員が一丸となってシティプロモーションに取り組むため、インターナルプロモーションの一環として、研修会を開催。
- 地域を語る・考える場を創出し、市民のシビックプライド醸成を図るため、全5回の「市民ワークショップ」を開催。
 - ・地域の高校生を含む26名が参加。
 - ・今後も引き続き、「ストーリーテラー（物語の語り手）プロジェクト」として展開。
 - ・R7年度については、「人物図鑑制作ワークショップ」を開催予定。
- シティプロモーションに関する取り組み周知の一環として、市長と河井氏による対談動画を作成し、市公式Youtubeにて公開。
- 市シティプロモーション推進の方向性を定める「香取市シティプロモーション指針」を策定。



イメージビジュアル
（ストーリーテラープロジェクト）

No.18 千葉県香取市（スローシティプロジェクト支援）

地域力創造アドバイザー	飯盛 義徳氏（A086）
活用分野	ふるさと教育、地域と教育機関の連携、住民参加、地域ブランディング
活用期間（頻度）	令和6年度～令和7年度（月2回程度）
キーワード	# シティプロモーション # 地域の担い手 # 魅力再発見 # シビックプライド # スローシティ

【目的】 市民と大学生が一体となって、市内各所に根付く独特の生活スタイル、食や農産物、歴史・文化などを探求し、地域の個性を再発見する。その地域の個性を尊重したまちづくりを目指し、移住・定住施策を推進することで、郷土愛の醸成を図る。

【内容】

- 講演会の開催
- 大学生のフィールドワークによる調査・研究
- ワークショップの開催
- 調査研究の成果発表



講演会の様子



フィールドワークの様子

【成果（見込み）】

- 取組の中心的概念である“スローシティ”について理解を深めるための講演会を開催。
幹部を含む市内職員50名弱が参加し、市の魅力再発見の取り組みに対する理解を醸成
- 地域外の大学生というソトからの視点で、新たな魅力の創出
主に住民自治協議会の活動を対象に地域を訪問し、地域の魅力を調査・研究
- 大学生のフィールドワークを通して、地域で活動する人たちと交流し地域キーマンの発掘
フィールドワークを通して200名弱の地域住民と交流し、地域活動の担い手とも交流を深めた
- 地域の人たちとの交流やワークショップをとおして、地域の魅力を再発見し、シビックプライドの醸成
成果発表会では50名弱の参加者があり、ワークショップでは地域の魅力を市民とともに再定義し、参加した市民のシビックプライドの醸成に寄与した
R7は市民参加のワークショップを開催し、地域の活動や魅力のシンボル化を行う



発表会の様子

No.19 新潟県津南町（総合探究活動による学校の魅力化等）

地域力創造アドバイザー	山本 竜也氏（A713）
活用分野	地域づくり人材育成・教育
活用期間（頻度）	令和6年度（月3～4回程度）
キーワード	# 探究活動 # 高校魅力化 # 総合的な学習の時間 # 地域の魅力発見 # 起業 # 地域・企業の活性化 # キャリア教育 # 賑わい創出 # 学校・行政・地域との連携

【目的】

- 町の特色を生かした教育活動を推進し、未来に向けて自分の夢や希望を持ち主体的に生きる児童生徒の育成を図り、町の教育の魅力を高める。
- 学校と地域のかかわりを重視し、児童生徒が地域（ふるさと）の特色や課題を自分ごとと捉え、自らの将来を見据えながら、主体的、対話的に取り組んでいく、総合・探究活動の実現を図る。



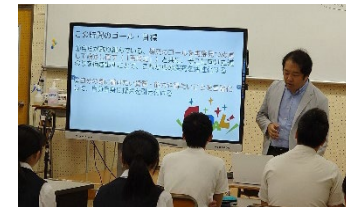
2校の交流授業



中等校の今後を考える会

【内容】

- 各学校や児童生徒、地域等の現状をヒアリング
- 各学校の要望・実態に応じた総合・探究活動の提言やアドバイス、授業展開
- 県立津南中等教育学校の探究活動「津南妻有学」の生徒及び教員の伴走支援
- 町立津南中学校と県立津南中等教育学校との連携



探究活動支援



探究活動発表会

【成果（見込み）】

- 新潟県遠隔教育推進事業 探究事業「探究のゴールを設定しよう&自分が身に付けた資質/能力・得たいことを考えよう！」の企画設計・ファシリテーターとして活動（津南中等が幹事校）
- 津南中等6年生に対して志望理由書講座を開講及び個別指導を実施し3名が合格（上智大学、富山大学、桜美林大学）
- 津南中等5年生の探究活動において、3チームが全国高校生マイプロジェクトアワード地域summit特別賞を受賞
- 津南中等3年生の探究活動において、1チームがクエストカップ全国大会 準企業賞を受賞
- 津南中学2年生と津南中等2年生による職業調べ学習、キャリア観に関わる交流会の開催
- 津南中等校内プロジェクトチーム「津南中等教育学校の今後を考える会」ワークショップ企画・ファシリテーター

No.20 富山県・氷見市（氷見市に行きたくなる仕組みづくり）

地域力創造アドバイザー	金山 宏樹氏（A478）
活用分野	地場産品発掘・販路開拓、人材研修、地域ブランディング、メディア活用策
活用期間（頻度）	令和6年度～令和7年度（月1回程度）
キーワード	#観光施設の磨き上げ、#伴走支援、#メディア活用、#新商品開発、#メニュー開発、#人材育成

【目的】

本市を全国の観光における「目的地」とするため、観光施設等の集客・回遊性の向上による「氷見市に行きたくなる仕組みづくり」を行うとともに、地域資源の磨き上げとPR力強化、人材育成等を行う。

【内容】

- 観光施設（道の駅「氷見」（氷見漁港場外市場 ひみ番屋街））テナント等に対する新商品・メニューの開発支援
- 道の駅「氷見」による情報発信を通じた地域のブランディングや誘客
- 道の駅「氷見」に対する経営改善、運営体制の改善の支援
- 事業の継続に必要な人材の育成支援

【成果（見込み）】

- 新商品・メニューの開発支援
 - ⇒「氷見ならではの食材を活用した季節のしゃぶしゃぶ」など地元高校と連携し、新たなご当地メニューを開発した（2種類）
- 情報発信を通じた地域のブランディングや誘客
 - ⇒メディア等を集め、新メニューの発表会を行った。
 - また、SNS等を活用した情報発信を行った。
- 事業の継続に必要な人材の育成支援
 - ⇒支援対象施設内での運営体制の改善のため、ヒアリング、ミーティングを行い、組織内で活発な意見交換を行う素地が作られた。
 - また、メニューの開発や情報発信について伴走支援を通じたOJTにより若手社員の育成を行った。



地域の高校と連携し開発した新メニューの発表会
（プレスリリース）

No.21 福井県大野市（地域資産の発掘等）

地域力創造アドバイザー	橋村和徳 氏（A466）
活用分野	地域資産の発掘、交流人口の増加、観光振興・地域活性化策の提案、
活用期間（頻度）	令和6年度～令和7年度（月4, 5回程度）
キーワード	# 地域資源を活用した地域経済循環 # 観光振興・交流 # 関係人口の創出・拡大 # 移住・定住促進 # 自治体経営イノベーション

【目的】

地域の魅力や価値を発掘・向上させることで、地域力を強化し持続可能な地域創生と活性化を目指す

【内容】

六呂師高原を中心とした大野市の自然資源（地域資産）を発掘し、自然体験を軸とする観光業及び観光サービスの開発について、地元関係団体を巻き込みながら、企画提案、アドバイスを行なっていく。

- ①交流人口の増加を目指し、六呂師高原を中心とした地域資産の棚卸し調査の実施
- ②官民連携による新たな観光振興・サービスの施策案の策定
- ③認知及び集客を高める施策案の検討

【成果】

- 六呂師高原開発関連事業と地域事業者との連携や外部参入事業者の獲得
 - ・キャンプ場「SORA to DAICHI」（R7.7オープン予定）の誘客に向け地域プレーヤーと連携した事業の提言
 - ⇒アクティビティ提供事業者との連携、地場製品の導入やキャンプ用品の販売
 - ・福井県立恐竜博物館との連携
- ・大手イベントやIT企業など外部参入事業者の獲得
- 新規イベントや六呂師高原への誘客策の提言
 - ・六呂師高原の星空やフィールドなど地域資源を活かし実施する大規模音楽フェスの企画提言（R7.10開催予定）
 - ・新たな誘客策として星空鑑賞用のデッキやフォトスポットの整備の提言（R7整備予定）
- 地域資源の棚卸し調査の実施
 - ・全国から地域ブランディングやコンサルティングなど活躍するプレーヤーを招き、地域資源の活用を検討するフィールドワークの実施（R7.1）



フィールドワーク



フォトスポットイメージ

No.22 長野県・松本市（地域活性会社の事業再生）

地域力創造アドバイザー	善井 靖 氏（A084）
活用分野	地域中核企業の支援、滞在・活動の場づくり、地域おこし協力隊の推進、官民連携、人材研修
活用期間（頻度）	令和5年度～令和7年度（現地訪問月1回程度・オンライン月2-3回程度）
キーワード	#地域資源 #地域再生 #観光地域づくり #事業再生 #財源確保 #関係人口 #経営理念 #事業計画 #行動指針 #ビジョン策定 #社員教育 #広告計画 #集客イベント #住民幸福度 #ウェルビーイング

【目的】

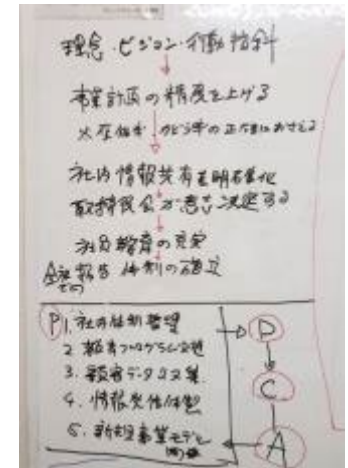
令和6年度から松本市奈川地区の地域活性を担う株式会社ふるさと奈川の事業再生を担当。半年間の調査・現地訪問・打ち合わせを経て、経営理念・ビジョン・行動指針の策定を図り、事業再生に入るべく経営全般・事業計画・教育・広報等に渡るアドバイスと計画策定を実施。

【内容】

- 松本大学教授陣との協議を実施、大学連携施策の具体案作成
- ミサワホーム主催イベントでのプレスリリース作成とイベント実施内容アドバイス
- 財務指標データの分析と経営改善点アドバイス、第三者割当増資による資本増強の具体的施策提案
- 事業計画分析と仕事満足度調査の結果に基づく取組事項の優先順位付け整理、提案。
- 施設の売上状況分析、利用者データ分析、施設運営に関する課題抽出と解決ロードマップ提示
- 組織の運営方針や予算、計画、体制変更等アドバイス。新規事業や社員教育に関する提案
- 「WELLBEINGワークショップ”幸せに働く”を考える3時間」全従業員向け実施。
- 観光地域づくり先進地視察・地域おこし協力隊、市役所職員引率(豊岡市、水上町)

【成果（見込み）】

- 経営理念・ビジョン・行動指針の策定
経営理念が策定されていない組織に全社員が一つに纏る必要性を説き新規に策定。
- R7年度事業計画策定
1.業務マニュアル作成、2.安全・衛生管理、3.勤怠管理、4.ハラスメント教育
5.人事制度、6.広告計画、7社員教育体制 等経営全般の新規計画策定
- 施設稼働率向上の体制整備
現状の平均稼働率20%から35%に向上する為の体制整備



（議論時の説明ボード）



（先進地視察・豊岡市）（WELLBEINGワークショップ）

No.23 長野県・信濃町（特定地域づくり事業）

地域力創造アドバイザー	平林 和樹 氏（A671）
活用分野	関係人口の創出・拡大、移住定住促進
活用期間（頻度）	令和6年度（月7回程度）
キーワード	#仕事 #マルチワーク #複業 #特定地域づくり #地域づくり #協同組合 #地域連携 #人材活用 #ワークスタイル #地方で働く #自分らしい働き方 #関係人口 #地域との関わり方

【目的】

季節性のある仕事が多い本町において、特定地域づくり事業協同組合を設立し、年間を通じた雇用を創出し、地域の担い手確保を図る。

【内容】

- ・組合設立に向けた構築支援
- ・先進地視察支援
- ・町内事業者ヒアリング
- ・組合加盟事業者の募集支援
- ・組合職員の募集支援



先進地視察（島根県海士町）



先進地視察（山形県小国町）



町内事業者ヒアリング・設立検討会

【成果（見込み）】

- ・先進地視察選定及び現地コーディネート実施
（島根県海士町、山形県小国町、福島県柳津町・三島町・昭和村）
- ・町内企業10者ヒアリング調査にニーズ把握
- ・組合設立同意者11事業者（年度内でさらに2事業者が参加意向表明）
- ・令和7年3月24日に事業協同組合「信州しなのまち複業協同組合」を設立
※事業協同組合の認可は令和7年4月の見込み。
※特定地域づくり事業協同組合認定は令和7年6月の見込み。
※労働者派遣事業の届け出は令和7年7月を予定し、特定地域づくり事業に基づく派遣業務も7月開始の見込み。



信州しなのまち複業協同組合創立総会 28

No.24 岐阜県海津市（保育園留学）

地域力創造アドバイザー	山本 雅也氏（A642）
活用分野	地域資源を活用した地域経済循環、少子化対策、子ども・子育て支援、関係人口、二地域居住
活用期間（頻度）	令和6年度～令和7年度（月2回程度）
キーワード	# 保育園留学 # 子育て # 空き家 # 関係人口 # 二地域居住

【目的】

本業務は、本市独自の魅力や価値の向上に取り組むことで地域力を高め、地方創生及び地域活性化に資する活動に対し、課題解決のために指導及び助言を行う地域力創造アドバイザーとしての役割を果たすことを目的とする。

【内容】

地域力創造アドバイザーは本市の保育事業を通じた地方創生に向けて、円滑な「保育園留学」事業の導入、実施を支援する。さらに空き家をリノベーションする提案等を行うとともに、その空き家を活用した田舎暮らし体験事業の二地域居住の企画・立案を行う。

【成果（見込み）】

- 保育園留学の導入及び持続可能な受入体制の支援
 - ① 保育園留学・田舎暮らし体験に向けた移住促進宿泊環境の整備
 - ② 地域受入体制の整備として協力体制、運営計画の策定
- こどもと家族の二地域居住促進と空き家活用
 - ① 二地域居住計画の促進に関する計画策定と実施
 - ② 田舎暮らし体験（お試し移住）の推進
- 事業の重要業績評価指標（K P I）
 - ① 本事業の成果として、保育園留学を体験した家族数を直接的な関係人口として目標設定
保育園留学を通じた家族単位での利用者数 年間30人（目標値）
（1世帯あたり平均3人と想定）
 - ② 保育園留学利用者の累計宿泊日数（延べ宿泊数）を目標値として設定
保育園留学を通じた中期滞在の宿泊数 年間140日（目標値）



（保育園留学）



No.25 三重県名張市（赤目四十八滝観光地再生）

地域力創造アドバイザー	中村 元 氏（A597）
活用分野	地域資源を活用した地域経済循環、観光振興・交流、シティプロモーション・地域PR
活用期間（頻度）	令和5年度～令和7年度（年10日～12日程度）
キーワード	#観光 #観光誘客 #集客アップ #観光地再生 #まちづくり #ブランディング #バリアフリー観光 #情報発信 #パブリシティ #プロモーション #水族館

【目的】 オオサンショウウオの活用、バリアフリー観光等により、本市の主要観光地である赤目四十八滝の観光地再生を行い、観光誘客及び消費拡大により観光産業の活性化を図る。

【内容】

- 赤目四十八滝のブランディング
- 赤目四十八滝のユニバーサルデザイン化
- パブリシティカの強化
- 日本サンショウウオセンターの赤目滝水族館化
- アクティビティの開発



集客アップ戦略セミナー



赤目滝水族館



オオサンショウウオの展示

【成果】

- 行政、各種関係団体、観光業、サービス業など、市内産業に関わる様々な主体が観光について学び、情報を共有し、今後の取組をより豊かで持続可能なものにしていくことを目的としたセミナーを開催（3回）
- 令和6年4月に日本サンショウウオセンターを赤目滝水族館としてリニューアルオープン。
令和4年度の赤目四十八滝の観光入込客数96,319人→令和6年度124,564人
- 観光事業者へバリアフリー観光を浸透させるためのセミナーを開催（3回）
- バリアフリー対応のアクティビティの開発（2件）
 - ・赤目滝水族館ナイトアクアリウム体験
 - ・苔さんぽ&苔玉づくり体験
- パブリシティ戦略として、様々なメディアに対しプロモーションを実施
 - ・出演番組：あにまるランキングダム、news one、太田・石井のデララバ、すまたん 他



新しいアクティビティ体験

No.26 兵庫県洲本市（道の駅開設支援等アドバイザー）

地域力創造アドバイザー	金山 宏樹氏（A478）
活用分野	人材研修、地域ブランディング、起業支援、地場産品発掘・販路開拓
活用期間（頻度）	令和6年度～令和8年度（月1回程度）
キーワード	#仕掛け #道の駅再生 #起業・開業 #地域ブランディング #ブランディング #商品開発 #繁盛店プロデュース #地域PR #賑わい創出

【目的】 洲本市初となる道の駅開業を見据え、魅力度の高い持続可能な運営体制の構築や、効率的で効果的な施設整備の実現を図る。

【内容】

- 運営管理を踏まえた道の駅施設整備に関するアドバイス
- 運営管理を踏まえた既存施設のリニューアルに関するアドバイス
- 道の駅物販施設の経営戦略と体制整備に関するアドバイス



新メニュー試作品



新メニュー試食会

【成果（見込み）】

- 赤字拡大の要因である無駄なコストを削減するため、レストラン部門のFLコスト（食材原価率45%、人件費59%で計100%超）を見直し、食材原価率を32%で調整。さらに、組織全体で残業ルールの整備、営業形態の見直し、人員配置の最適化を促進。
 - レストラン部門において、地元の旬食材（春・初夏・夏・秋・冬）を活かした新メニューを開発。メディア露出を狙うとともに、メニューのリニューアルと単価アップに向けた新価格を設定。
原価率改定メニューへのリニューアル、納品チェック、正確な棚卸し等により、3月の食材原価率が前月対比43.4%→31.6%
 - 地元の特産品を活用した加工品の開発を推進（ふるさと納税への出品も視野）。
 - 地元漁業協同組合とのヒアリングを重ねた結果、年間約160万人が訪れ、九州・沖縄エリア売上トップを誇る「道の駅むなかた」（福岡県宗像市）の成功モデル導入への方向性が決定。これにより、新鮮な魚の直接販売が可能、他の道の駅との差別化戦略が実現。利益向上やリピーター獲得に加え、洲本市「海の幸」ブランド化の促進。
 - 浴場部門はプランの見直し（2025年01月から実施）や価格改定（2025年4月実施予定）を行うことにより、赤字額が約1,200万円（2024年12月末時点）から約700万円まで縮小できる見込み。
 - 自発的な改善提案の仕組みづくりにより、赤字に対する危機感が薄かったスタッフは、自ら課題を発見し、改善策を提案・報告する姿勢が顕著化。
- ※初年度（令和6年度）は、組織改革を最優先で進め、無駄なコスト削減や課題の抽出、赤字意識の低いスタッフに意識改革などを実施、経営基盤を支える健全な組織の仕組みづくりに注力した。



地元漁業協同組合との意見交換会

No.27 兵庫県豊岡市（自伐型林業推進）

地域力創造アドバイザー	中嶋 健造氏（A249）
活用分野	地域資源を活用した地域経済循環、環境保全・SDGs、地域づくり人材の育成・教育
活用期間（頻度）	令和6年度～令和7年度（年5回）
キーワード	#林業、#力強い林業、#多間伐施業、#小規模、#低投資、#低コスト、#環境保全型林業、 #移住・定住、#林業の活性化、#獣害対策、#災害防止、#中山間地域

【目的】

自伐型林業推進により、林業の新たな担い手の発掘と育成を図り、持続可能な力強い林業の確立を目指す。

【内容】

- 情報提供、意見交換会の開催
- 市内山林調査
- 関係者へのヒアリング
- 自伐型林業推進に向けた計画案の作成
- 自伐型林業推進フォーラム（令和7年度予定）

【成果（見込）】

- 自伐型林業の施業地及び研修地の発掘・把握のため、市内11ヶ所での山林調査を実施
- 自伐型林業の推進方策を検討するため、市内林業事業体や地域おこし協力隊等18名の関係者からヒアリングを実施
 - 自伐型林業に興味を持った：2名
 - 市内で自伐型林業を展開したい：8名
- 豊岡市での自伐型林業展開の方針と実施計画（長期ロードマップ）及び目標設定
 - 中間目標（令和9年度末）：自伐型林業従事者5名、施業地面積25～50ha
 - 最終目標（令和14年度末）：自伐型林業従事者25名、施業地面積750ha
- 目標達成のための展開項目の洗出し（担い手の技術習得手法と定着化手法・山林確保手法・行政支援内容等）
- 「自伐型林業」をテーマとしたフォーラムの開催（令和7年度予定）



市内山林調査

No.28 兵庫県加東市（ICTを活用した観光体験商品の企画開発支援）

地域力創造アドバイザー	細川哲星氏（A546）
活用分野	1. 地域資源を活用した地域経済循環、6. 観光振興・交流、12. シティプロモーション・地域PR
活用期間（頻度）	令和6年度～（令和8年度まで予定） ・稼働＝月4回程度（全30回程度）
キーワード	#観光 #周遊 #消費拡大 #魅力発掘 #地域商業の活性化 #賑わい創出 #誘客

【目的】

観光客の一極集中の是正、観光客の滞在時間の延長を目的に、ICTを活用した新たな周遊型の観光体験商品を企画・開発することで、観光地としての魅力を強化する。
今年度は特に東条湖に宿泊し周辺での消費を促す観光コンテンツを地域とともに創出することで、市における観光振興と消費拡大を促進した。

【内容】

- 市、市観光協会、市内事業者が主体となって取り組むマードーミステリーのシナリオ作りと既存観光施設での仕掛けづくりの指導
- シナリオの検討会議、地域との協力会議運営・宿泊事業者との調整とアドバイス、事業者同士の橋渡し
- 集客策とICT活用の指導（シナリオ内から予約まで）

【成果】

- 指導のもと、地域の観光施設や特産品を盛り込んだシナリオを完成させることができ、旅行商品として販売できた。
- アドバイザーにより、地元ホテルの協力を取り付けることができ、フロアを貸し切ったの大規模な事業として実施できた。
- 参加費は宿泊費込で1人28,000円。シナリオ中に地元のお菓子を登場させ、施設だけでなく、地域での消費を生み出した。シナリオ後に食事をして帰られる方、お土産を買って帰られる方がほとんどで、新たな層の誘客と地元での消費を達成した。
- 参加者は100人超。今後も今回制作したシナリオを運用することで、最終的に事業での費用対効果はプラスに転じる見込み。



シナリオタイトル



実際に来場し
宿泊した方々
（実施の様子）

No.29 奈良県・奈良市（奈良伝統工芸産地留学事業）

地域力創造アドバイザー	大牧 圭吾氏（A462）
活用分野	地域人材の情報発信力の向上と、地場産業の後継者の発掘・育成
活用期間（頻度）	令和6年度（月2～3回程度）
キーワード	# 伝統工芸 # 産地留学 # 一刀彫 # 奈良人形 # 後継者育成 # インターンシップ # 進路選択 # 仕事体験 # 工房見学

【目的】

本市の伝統工芸は、ライフスタイルの変化による需要の減少などに伴い、後継者不足が深刻化しており、工芸作家を志す者や伝統工芸に関心を持つ学生等の発掘を通じて、後継者の確保が求められている。

本事業は、全国から後継候補者を募り、産地留学を実施し、工房主や若手工芸作家と交流する機会を提供することで、平成18年から実施している奈良伝統工芸後継者育成研修の円滑化や工房主の受入体制の整備を目的とする。

【内容】

- （工房主向け）合同説明会の実施
- 受入先工房主の決定
- 参加者の募集・選定
- 産地留学の実施



（工房見学の様子）



（仕事体験の様子）

【成果（見込み）】

○市内工房主等に対し、奈良伝統工芸産地留学事業の合同説明会を実施し、現地オンライン含め7名の工房主が参加。

後継候補者の専攻分野に偏りが出ないように、受入先を『奈良一刀彫』に絞り、産地留学を実施。

○後継候補者となり得る人材を全国から募集を行ったところ、47名の応募があり、書類選考及びオンライン面談により、6名を決定。

○奈良一刀彫作家2名の工房見学や、座談会、仕事体験等を中心に2泊3日の産地留学を実施。

作家を目指す後継候補者と後継者を求める産地のマッチングを行った。

No.30 鳥取県・米子市（域内経済強化のエリアマネジメント）

地域力創造アドバイザー	又吉 重太 氏（A607）
活用分野	まちなか再生、関係人口の創出・拡大、地域づくり人材の育成・教育
活用期間（頻度）	令和6年度から制度活用（月2回現地協議、月6回オンライン協議）※令和3年度から継続して関与いただいている。
キーワード	# 営み#空間#支える仕組#地域住民#温泉地#海辺#エリアマネジメント#まちづくり#エリア経営#情報発信 #ワークショップ#関わり代拡大#開業支援#低未利用地#中間支援組織#ビジョン#来街支援#マーケティング

【目的】

皆生温泉エリアの持続的な経済発展のためには、「選ばれ続ける温泉地」となることが必要である。しかしながら、本温泉地の経営手法には、旅館単体のブランド力で誘客するものがベースにあり、温泉地としての面的なまちづくりが充分とはいえない現状にあった。そのため、個人旅行・トキ消費トレンドといった旅行ニーズの多様化に対応できず、空き地・空き店舗の多い閑散とした街に変化した。また、閑散期と繁忙期の大きなギャップが存在し、不安定な温泉地経営が続いていた。

これらの課題に対処するため、令和4年度にビジョンを定め、宿泊客だけではなく、通年で訪れる方・住まう方の来街を受け入れるウェルビーイングなまちを目指し、「営み・空間・支える仕組み」のマネジメントに着手した。

【内容】

地域住民の来街支援・滞在時間の延長・域内消費の拡大に取り組むとともに、新たな活動者・経営者の関わりしろの拡大を図った。加えて、『地域の日常があり、訪れたくなる「まち」』としてのブランディングに取り組むなど、多様な軸でまちの魅力向上を図り、観光産業の柱である宿泊者増に寄与すべく各種の取組を推進した。

皆生温泉エリア経営実行委員会への伴走型アドバイザー

定例会の事務局支援、情報発信支援、事業者誘致開業支援、ビジョン更新支援、WS運営支援
まちなみデザイン検討支援、まちづくりにおける中間支援の在り方検討の伴走

かいけラボ共同時様態への伴走型アドバイザー

みんとしよ設立・運営事業、定期的な来街支援イベント事業、人材発掘・育成事業
不動産流動化に係るサブリース事業

【成果（見込み）】

- 新規開業店舗数 R4:9店舗、R5:5店舗、R6:3店舗、R7（目標）:3店舗
- ビジョンの更新「KAIKE AREA DESIGN ver2.0」（WSを通じて策定）
- エリアマネジメント活動の受賞歴
→R4ソトノバアワード大賞、R5グッドデザイン賞、R6デザイン白書掲載、NEXTPUBLICAWARD（公共R不動産）
- コロナ前の宿泊客数の水準に回復（24万人→40万人）
- 地域住民へのエリアマネジメント情報紙によるエリア経営の認知向上（0→50%）



（ビジョンイラスト）

No.31 鳥取県倉吉市（地域脱炭素）

地域力創造アドバイザー	本橋 恵一氏（A687）
活用分野	環境保全・SDGs（分散型エネルギーシステム、地球温暖化対策）
活用期間（頻度）	令和6年度（月10回程度）
キーワード	#地域脱炭素 #伴走支援 #分散型エネルギーシステム #再生可能エネルギー #地域新電力 #SDGs #公益事業 #コミュニティ支援 #PPA #卒FIT

【目的】

「ゼロカーボンシティ」宣言の実現に向け、脱炭素と地域課題解決を一体的に推進する取組の活性化を図る。

【内容】

庁内関係課との企画調整、地域の民間事業者、近隣自治体と連携した協議体へ参画し、脱炭素先行地域など関連する交付金の取得に向けた事業形成支援。

エネルギーインフラを軸にしたスマート農業支援や事業計画立案支援、エネルギーインフラ設備のリサイクル、リユース技術の先進的手法の紹介による新事業創生、環境問題での国際的潮流に精通している優位性を活かした資源循環手法の具体的紹介と事業骨子の立案など幅広いノウハウの提供。人的ネットワークを行かした専門化のコーディネーション。

【成果（見込み）】

- 地域の民間事業者、近隣自治体と連携した協議体に参画し、延べ200回を超える支援を実施。
 - ・遊休農地対策と中山間地生活環境維持を一体的に解決するコミュニティソーラーシェアリングの実現に向けた企画調整。
 - ・地域事業者と複数自治体の地域間連携で設立した地域新電力を軸にした地域脱炭素化の支援。
- ※支援事業は脱炭素先行地域募集（第6回）に選定。

- GX時代の新たな農業のモデルの構築と次世代育成
 - ・県、大学、教育機関と連携した農業のエンパワーメント
 - 脱炭素化等環境保全を通じた魅力ある農産物の生産
 - 耕作維持困難地等を活用した高効率・経済的な農業のスマート化
 - ・農業設備と再エネ設備のマッチング、里地里山保全の新スタイル



自治体・大学共同の意見交換会
（どくだみ農家訪問、発電所視察）

No.32 岡山県井原市（伴走型リブランディング支援等）

地域力創造アドバイザー	矢島 里佳 氏（A424）
活用分野	リブランディングで企業・地域の本質を磨き出し、地域を活性化！（１．地域資源を活用した地域経済循環）
活用期間（頻度）	令和6年度～令和8年度（月1回程度）
キーワード	#ひとつづくり #地場産業魅力発信 #リブランディング #伴走支援 #若手活躍 #若者のチャレンジ支援

【目的】地場産業の魅力や可能性を再発見する機会の設定や、若者たちの夢や目標の実現に向けたプランやアクションを支援する体制の整備を通して、地場産業の魅力拡大や課題解決、若者たちの自己実現やキャリア形成の一助とする。

【内容】

- 企業ブランディング委員会への助言
- 地元事業所への伴走型リブランディング支援
- 若者のチャレンジに対する助言



井原おしごと探検ツアー チラシと集合写真



井原おしごと体験フェス チラシと体験の様子

【成果（見込み）】

- 地元商工会議所内に組織された企業ブランディング委員会と井原市ひとつづくり実行委員会がコラボした魅力発信プログラム『井原おしごと探検ツアー』、『井原おしごと体験フェス』を開催
 - ⇒市内3社を巡る『井原おしごと探検ツアー』には14組・33名（児童19名、保護者14名）が参加
 - ⇒29事業所が39ブースを設置した『井原おしごと体験フェス』には200組・600名以上が参加
- 株式会社共和鋳造所への伴走型リブランディング支援（計8回）を実施
 - ⇒社長と若手社員4名がセッションに参加し、会社の軸となるワンメッセージを設定『鋳造とともに心豊かに生きる』
 - ⇒社員のモチベーションにつながり、会社の魅力発信に対する取組が加速
- ふるさと井原“『夢&志』アクション助成」報告会の開催
 - ⇒高校生2名、大学生1名、若手社会人1名の取組に対する指導講評を行い活動のブラッシュアップを支援



リブランディング支援 現地視察の様子



若手社員が新たな発信資料を作成し、中学生との交流会にも参加 37

No.33 岡山県矢掛町（矢掛町イタリア野菜プロジェクト）

地域力創造アドバイザー	徳田 恭子 氏（A415）
活用分野	地域資源を活用した地域経済循環（地場産品発掘・販路開拓）
活用期間（頻度）	令和4年度～令和6年度（月1～2回程度）
キーワード	#農業振興 #一次産品のブランド化 #野菜の産地化 #地域商業の活性化 #魅力発掘 #魅力発信 #伴走支援

【目的】

矢掛町は東京2020オリンピック・パラリンピック大会において、イタリアのホストタウンとして登録された。コロナ禍で、選手との直接の交流はできなかったが、事前キャンプを行う選手団に「おもてなし食材」として農産品等を提供し、選手・シェフから好評を得たことをきっかけに、イタリア野菜の産地化を目指し、農家の所得向上及び地域活性化を図る。

【内容】

- ・矢掛町内の「おもてなし食材」を見直し、ストーリーや魅力を再発見する。
- ・ワークショップ等を開催することで、主体と目標を明確にし、商品分析や指導・助言活動を行い、矢掛町一次産品（イタリア野菜）の価値向上及び販路拡大を図る。

【成果（見込み）】

- 1年目：JA野菜部会を中心としたイタリア野菜研究会を発足。
栽培した野菜をイタリア料理店等にサンプルとして送付し
ブランド化に向けた意見等を収集した。
町民向けの料理教室を実施。
- 2年目：産地ツアーを実施しシェフを呼んで、農地を巡回した。
イタリア大使館を訪問し、矢掛町の取組の説明を行った。
- 3年目：県外のイベントに出展し、イタリア野菜のPRを実施。
矢掛町にイタリアシェフを招致し、生産者、消費者、シェフが
交流する「テーブルCROSS」イベントを実施。
⇒矢掛町産イタリア野菜ファン獲得へ



農地巡回



料理教室



テーブルCROSS



マルシェ

No.34 愛媛県・伊予市（まちづくりの人材育成）

地域力創造アドバイザー	前神 有里氏（A399）
活用分野	課題解決思考から価値創造思考へ～人と地域とあいだをつなぐ人材育成～
活用期間（頻度）	令和4年度～令和6年度（月2回程度）
キーワード	#人材育成 #まちづくり #部署横断 #関係人口 #市町村交流 #人 #連携 #幸福度

【目的】

人脈や経験豊かな地域力創造アドバイザーの登用により、地方創生を担う中核的な人材を育成するとともに部署横断の横串手法に業務遂行を図る。

【内容】

- ますます、いよし。地域人財育成セミナーの開催 ※令和5年度からの継続
- 市職員向け勉強会、意見交換会の開催 ○自治体間の連携、意見交換会
- 風通しの良い意見交換会（部署間横断型の意見交換）
- （一財）地域活性化センターとの連携 等

【成果（見込み）】

- 3自治体との連携開催を実施し、テーマごとに外部人材を交えて自治体の枠を超えた人材育成のセミナーを開催、あらたな事業展開や関係人口の創出。
→令和5年度7回、令和6年度1回 ※西予市、今治市との連携開催実施。
→セミナーをきっかけに労働者協同組合設立（令和6年度：市内2法人）。
 - 「対話」を通じた地域づくりの人材育成に向けて研修会、意見交換会等を開催。
→年間4回程度開催（階層別、テーマ別）。
 - 自治体間の意見交換による広域連携の可能性や視野の拡大につなげる。
→愛媛県内：西予市、今治市 県外：滋賀県栗東市、熊本県宇土市との意見交換。
 - 庁内の連携や横のつながりを強化、押し付け合いの禁止による部署横断的な断的取り組みを検討。
→3ヶ月に1回程度。
 - （一財）地域活性化センターとの連携により、まちづくりに関わる職員を対象にした人材育成のアクションプランの策定。
→令和7年度～11年度（5年計画）
- その他、外部人材（団体）との連携により幸福度の高いまちの実現に向けて継続的な人材育成の推進と「人」のつながりが多数生まれている。



（地域人財育成セミナー）



（外部人材を交えた意見交換）



（市職員向け階層別研修会）

No.35 高知県室戸市（地域づくり人材の育成等）

地域力創造アドバイザー	船木 成記氏（A500）
活用分野	地域づくり人材の育成・教育
活用期間（頻度）	令和4年度～令和6年度（月1回程度）
キーワード	#まちづくり #地域づくり #人づくり #生涯学習 #サマセミ #行政組織の基盤づくり #高校魅力化

【目的】

本市の総合振興計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略を通して地域の持続可能性を実現していくため、市役所職員の人材育成はもとより、まちづくり、地域づくり、人づくり事業を多面的に実施する。

【内容】

地域活性化の取組に関する知見やのノウハウを有する外部人材から指導、助言を受けながら市職員の人材育成プログラムの実施や、市の政策立案・事業実施のサポートなどを担う。

- 行政職員・組織としての基盤づくり、実践型プロジェクトの運営
- 市の新しい取り組みについてのアドバイスや、勉強会等の運営
- その他、まちづくり・地域づくり・人づくりの様々な形でのサポート

【成果（見込み）】

- 船木氏のサポートのもと、自治のまちづくりを目指して地域住民同士の交流・生涯学習の場となるイベントとして、“誰でもセンセイ誰でもセイト”を合言葉に「**おらんくの室戸大学～サマーセミナー～**」を地元高校で開催（サマーセミナー事業として令和4年8月に四国で初開催） → 兵庫県尼崎市の事例を紹介いただき、高知大学生と室戸高校生、市職員が中心となり実行委員会を組織しスタート。地域住民を巻き込んだイベントとして成長中。（来場者 R5年延べ572人、R6年延べ742人）
- 室戸高校コンソーシアム会議の開催（11回）、室戸高校魅力化の会の開催（6回）
- 子ども子育て会議、男女共同参画会議等のオブザーバー参加による行政政策の質的向上
- 市役所内での若手職員の連携体制の構築

→将来的に、持続可能な地域づくりを意識し課を横断した効果的な施策を発案・実行できる人材を育成するため、**班長級会議を創設予定**



（おらんくの室戸大学～サマーセミナー～）

No.36 高知県須崎市（地方創生）

地域力創造アドバイザー	堀見 和道 氏（A612）
活用分野	市行政全般に係るアドバイザー業務
活用期間（頻度）	令和5年度～令和6年度（月2回程度）
キーワード	# 関係人口創出 # 地域おこし協力隊推進 # 地域ブランディング # 大学連携 # 高校魅力化 # 企業版ふるさと納税 # DX推進

【目的】 市行政全般に係るアドバイザー業務のほか、有識者の紹介、企画提案等、須崎市の元気創造、地方創生に寄与するためのアドバイスを行う。

【内容】 月2回 市政諸課題について協議、その他随時現地視察や関係者のマッチング

- ・市行政全般に係るアドバイザー業務
- ・「日本で一番釣り人にやさしい町」プロジェクト計画策定支援業務
- ・須崎市DX推進に係る支援業務
- ・図書館整備における企画、大学連携などの支援業務

【成果（見込み）】

- ・市行政全般に係るアドバイザー業務
- ・まちづくりへの高知大学参画
 - 須崎総合高校：総合的探究の授業支援、高校生の地域イベント出展、高校生マルシェや音楽祭開催
 - 須崎市で高知大学シンポジウム開催 観光漁業推進（釣りバカシティ）や関係人口創出事業（逆参勤交代）実施へ
 - 企業版ふるさと納税マッチング支援（R5 16,000千円、R6 5,000千円）
 - 寄付を活用し保育園と小学校でのアートを活用した非認知能力を伸ばす取り組みを実施
- ・「日本で一番釣り人にやさしい町」釣りバカシティプロジェクト計画策定支援業務
 - R5 計画策定完了 R5.11.9 須崎市釣りバカシティ宣言
 - 地域おこし協力隊2名活用
 - 釣り関係企業とのイベント開催やPR 地元事業者と連携したおもてなし体制構築
 - R6.10、R7.1 釣りイベント開催（2回で60人参加）
 - R7.2 大阪フィッシングショー出展 SNS登録者600人
 - スポーツ新聞や釣り雑誌掲載、釣りPR動画制作
- ・須崎市DX推進に係る支援業務
 - DX推進アドバイザーのマッチング支援 R6よりアドバイザーが着任
 - R6 須崎市DX推進計画策定、ノーコードシティ宣言



高校生のイベント出展



高知大学シンポジウム



釣りバカシティ宣言

No.37 福岡県築上町（地方創生人材育成事業）

地域力創造アドバイザー	吉弘 拓生氏（A452）
活用分野	人材研修、EBPMに基づく政策立案、その他 企業版ふるさと納税の推進
活用期間（頻度）	令和5年度～令和7年度（月1、2回程度）
キーワード	#ウェルビーイング #人材育成 #政策立案 #Well-Being指標 #企業版ふるさと納税

【目的】

まちづくりは人づくりからの理念のもとに、政策助言のほか複雑かつ多様化するニーズに対応するため、職員の人材育成による政策立案能力向上を図る。また、職場環境を整備し、組織全体を活性化させる。

【内容】

- ウェルビーイング研修
- 築上町政策研究ラボ（C-labo）、ちくじょう未来ワーク
- 築上町財政構造改革～活用しよう交付金～
- 企業版ふるさと納税に係る助言
- 空き家活用事業外部講師招聘
- 各課個別業務相談



（ウェルビーイング研修）

【成果（見込み）】

- 全職員対象のウェルビーイング研修や若手職員対象の政策立案の勉強会実施により、組織内で「Well-Being」への理解浸透や町の現状・課題について認識し、共有することができた。今後の政策立案においては、Well-Being指標を基にした政策の提案が期待される。また、対話の重要性を研修で学び、再認識したことで、風通しのよい職場づくりが進められている。
- 企業版ふるさと納税のマッチング会に初めて参加し、町の特色ある事業について多くの企業に直接PRすることができた。その後、マッチング会で交流のあった3社との個別面談につながった。



（築上町政策研究ラボ）

No.38 長崎県・波佐見町（地域循環モデル構築事業）

地域力創造アドバイザー	河野 公彦氏（A563）
活用分野	地域循環モデル構築
活用期間（頻度）	令和5年度～令和6年度（年6回程度※現地対応）
キーワード	#廃石膏活用 #サステナブル #SDGs #リサイクル #地域循環 #ブランド化 #関係人口づくり #コトづくり

【目的】

地域循環モデルを中心に人・モノ・金・情報及び事業等が豊かにつながっていくことで、産業の活性化、新規事業及びブランド化が進展し続け持続可能な町になっていくことを目的とする。

【内容】

- ・定期的な打合せ及び会議の開催
- ・個社へのヒアリング等の実施
- ・サステナブルに特化したイベント開催に向けた調整
- ・中間処理業者及び運搬業者との各種調整
- ・役場職員・排出者への説明会等の開催



（排出者説明会の様子）

【成果（見込み）】

- ・排出者のリサイクル意識の改善
→廃石膏の排出先であるストックヤードの整備を行い、安定的な排出が図れている。
- ・職員向け研修会や排出者向け説明会を実施し、サステナブルについての意識醸成を図ることができた。
- ・11月にサステナブルイベントを開催し、県内外から多くの来場がいただいた。
→販売側も来場者に感化され、リサイクルへの取組の重要性を再認識することができた。



（職員向け研修会の様子）

No.39 長崎県・波佐見町（新お土産品開発及び既存商品プロモーション）

地域力創造アドバイザー	平尾 由希氏（A621）
活用分野	お土産品開発
活用期間（頻度）	令和5年度～令和6年度（年4回程度※現地対応）
キーワード	#お土産品 #開発 #プロモーション #女性活躍 #販売促進 #廃石膏活用 #サステナブル #SDGs

【目的】

石膏の農地利用による農産物を活用した新商品の開発や地域ブランディングの確立が図られることを目的とする。

【内容】

- ・ 定期的な打合せの実施、関係機関との調整
- ・ 波佐見陶箱クッキー、八三三米くらわんかセットの販売促進
- ・ 陶箱スイーツ第2弾の開発
- ・ イベント限定販売の商品調整



（商品開発に係る調査の様子）

【成果（見込み）】

- ・ 関係者との定期的な協議の実施により商品のブラッシュアップを図るとともに効果的なPRを行った。
- ・ 陶箱スイーツ第2弾として廃石膏リサイクルの取組を活用し栽培した農産物を使用した「陶箱ポン菓子チョコ」を開発した。
→本品は、令和6年度長崎県特産品新作展 菓子・スイーツ部門において最優秀賞を受賞
- ・ 陶箱クッキーは2020年の販売開始から約10,000個を売り上げる商品になった。



（商品開発に係る打合せ）

No.40 熊本県南関町（図書館を核にした持続可能な地域づくり）

地域力創造アドバイザー	太田 剛 氏（A699）
活用分野	まちなか再生、関係人口の創出・拡大、地域づくり人材の育成・教育
活用期間（頻度）	令和6年度～令和7年度（月4、5回程度）
キーワード	#地域活性化 #地域経済循環 #図書館 #人材教育 #賑わい創出

【目的】

南関町交流拠点施設〈ukara〉整備において、その中核機能の図書館を地域づくり、地域活性化の中心施設として再設定し、人材育成や地域循環型の施設運営に取り組み、持続可能な地域の未来にむけた拠点とする。

【内容】

○南関町交流拠点施設〈ukara〉整備において、図書館を地域づくり、地域活性化の中心施設として再設定し、持続可能な地域の未来にむけた拠点とするため、人材育成や地域循環型の施設運営にむけた町内関係者会議の運営・アドバイスの他、図書館の運用支援システムへのアドバイス。南関町の新図書館「南関町図書館〈このみch-i〉」は令和7年10月にオープン予定。

【成果（見込み）】

- ・地域の人口（社会増減数）の維持

現状値（2024年度）-58人

目標値（2029年度）-18人

目標値（2035年度）±0人

- ・年間来場者数の増加

現状値（2024年度）3,300人

目標値（2025年度）16,000人

目標値（2029年度）40,000人

- ・まちづくりイベントの開催数

現状値（2024年度）4回

目標値（2025年度）6回

目標値（2029年度）12回



「まちづくり講演会」



「まちづくり研修会」

うから館 活用ビジョン



（交流拠点施設ukaraの活用ビジョン）

No.41 熊本県南阿蘇村（地域ブランディング）

地域力創造アドバイザー	中川 直洋氏（A-464）
活用分野	観光振興・交流、移住・定住促進、シティプロモーション・地域PR
活用期間（頻度）	令和6年度～令和8年度（月2、3回程度）
キーワード	#地域おこし #地域ブランディング #地域活性化 #地域産業の振興 #賑わい創出

【目的】 地域独自の魅力や価値の向上に取り組む活動を通じ、地域の活性化及び地域産業の振興を図る。

【内容】

- 地域資源の分析及び地域ブランディング
- インバウンド事業の推進
- 地域おこし協力隊及び地域起業家の支援

【成果】

- ノンアルコールワインの商品開発
 - ⇒ 南阿蘇村産ワイン用ブドウを使用したノンアルコールワイン試作2種類を開発
- 観光庁「特別体験事業」の円滑な運営
 - ⇒ 高付加価値の特別な体験を提供することでインバウンド需要を創出。
 - ⇒ 台湾及び香港から74名を誘客。
- 地域おこし協力隊向けワークショップ開催
 - ⇒ 地域おこし協力隊17名が参加し、起業やマーケティング戦略等について理解を深める。
- 「農業×観光×移住 地域の魅力を最大限に引き出すマインドとは」をテーマに
ワタミ株式会社代表取締役会長兼社長CEOの渡邊美樹氏を講師に講演会を実施。
 - ⇒ 地域の農業従事者、観光事業者、地域おこし協力隊など約60名が参加。



渡邊美樹氏講演会



地域おこし協力隊向け
ワークショップ



白川水源での野点

No.42 沖縄県・南城市（DMO組成検討）

地域力創造アドバイザー	善井 靖 氏（A084）
活用分野	観光振興・交流
活用期間（頻度）	令和6年度～令和7年度（月2回～3回程度）
キーワード	#観光振興 #地域経済活性化 #DMO #観光地域づくり #地域の魅力発掘 #合意形成 #多様な関係者 #ワークショップ #勉強会 #観光協会

【目的】

観光の司令塔となる観光地域づくり法人（DMO）を設立し、行政や民間事業者及び地域住民等の多様な関係者を巻き込みつつ、データに基づく戦略策定・実施・効果検証、観光コンテンツの開発・地域資源の磨き上げや受け入れ環境の整備等を行い、地域一体となった観光振興による地域経済・地域社会の好循環（持続可能な観光地域づくり）を図る。

【内容】

- DMOに関する勉強会の開催
- 観光地域づくり講演会の開催
- DMO組成検討市民会議・WSの開催
- 観光協会との役割整理作業の助言
- 観光地域づくり法人の組織設計素案作成の助言
- 観光関連事業者及び地域住民との意見交換実施



DMO勉強会



観光地域づくり講演会

【成果（見込み）】

- 観光地域づくりの理解醸成のため勉強会を4回開催。（7月～9月）延べ118名参加
- 観光地域づくりの市民意識啓発のため講演会を1回開催。（10月）参加者105名
- DMO組成検討のため市民会議・WSを6回開催。（10月～3月）延べ131名参加
- 観光地域づくりについての考えを確認するため、関係者と意見交換実施。（5月～3月）計20名
- 多様な関係者が参加して、観光地域づくりの理解醸成やDMO必要性の整理が図られた。
- 市民会議・WSにおいて、参加者よりDMO設立の目的や収益モデルの提案。
- 観光関連事業者や市民等の意見を踏まえて観光地域づくり法人設立の方向性決定。



DMO組成検討市民会議・WS

No.43 沖縄県・東村（デジタル人材と多様な連携）

地域力創造アドバイザー	鈴木 邦治氏（A227）
活用分野	人材研修、多様な関係者間連携、働き方改革
活用期間（頻度）	令和6年度～令和8年度（月12日程度）
キーワード	# DX # 地域デジタル化 # 人材育成 # 地域活性化 # プログラミング教室 # 大学連携 # AI

【目的】

地域デジタル化による住民の利便性向上、地域資源を活用した地域経済循環支援、庁内外DX支援などにより地域独自の魅力や価値の向上に取り組む。

【内容】

- ・地域デジタル化に関する助言、サポート
- ・沖縄国際大学との包括連携の締結
- ・庁内DX推進への助言

【成果（見込み）】

→公共施設（各公民館やキャンプ施設）に設置された公共Wi-Fiの活用について、現地での利用支援の実施。

→沖縄国際大学と東村との相互の活性化に寄与するため包括連携協定の締結を実現した。その第1弾の取組として、ものづくりIoT体験教室において沖縄大学生と東村児童生徒(8名)がプログラミングによるロボットを動かす体験を教育委員会等と企画、実施した。

→庁内DX推進員設置の提言により、各課1人のDX推進員が設置され、月1回の勉強会でITリテラシーやセキュリティ、AI活用による働き方改善、DXについてアドバイザーとして助言し、理解を深められたことにより庁内DX推進の機運醸成が図られた。また、住民利便性向上に向けたデジタル実装の検討段階において、助言を行った。

→ほかにも、庁内外問わず、デジタル化や事業実施の計画進行などの相談に対し助言を行った。



ものづくりIoT体験教室